

## 介護施設における持参薬管理によるリスク回避

田島英顕、立川靖之、後藤良太、勝山亜樹、尾崎覚、三宅宏昭  
株式会社 クリエイトエス・ディー

### 【目的】

わが国は医療の発達に伴い高齢化が進んでおり、全人口に占める65歳以上の割合は年々上昇している。それに伴って脳血管性疾患、高齢による衰弱や骨折、さらには認知症などが原因で介護を必要とする人が増加しているため介護施設の需要が高まっている。

当社は現在、医師の往診を受ける介護施設と提携しており、入居者に対して訪問薬剤管理指導を行っている。入居者の多くは疾病の治療を受けているため、入居時においては服用中の薬を持参することになる。そのため、持参薬を適正に管理しないとコンプライアンスの低下、重複投与や相互作用、さらには治療上必要性がない薬を継続して投与されるといった様々なリスクが発生する。以上のことから、薬剤師が持参薬の管理を担うことで持参薬に関わるリスクを防いでいくことが求められる。そこで本学会では、介護施設において薬剤師が持参薬を管理することによりリスクを回避している現状について報告する。

### 【方法】

介護施設において訪問薬剤管理指導業務を担当する薬剤師を対象に入居者の持参薬に関するアンケート調査を実施した。回収したアンケートから持参薬を管理することによりリスクを回避できた事例について抽出し、持参薬管理の必要性について考察した。

### 【結果】

介護施設入居時の持参薬に関するアンケート調査より、入居者の中にはコンプライアンスに問題があることや症状に適さない薬を継続して服用している状況が明らかとなった。コンプライアンスの問題に対しては薬剤師が一包化を行うことや施設スタッフへ服用に関する指導を徹底することで改善された。また、入居者からの情報収集や診療情報提供文書からの分析評価により、継続服用の必要性に疑義が生じた薬に対しては往診医に報告し服用を中止することで入居者の薬による負担を軽減することができた。

### 【考察】

介護施設入居時においては持参薬による様々な問題があるものの、その時点で薬剤師が改善に関わることで入居者に生じるリスクを回避することが可能である。コンプライアンス不良の状態や継続服用の必要性がない薬の投与は、入居者が適切な薬物治療を行っていく上で第一に改善しなければならない問題といえる。これらの持参薬における問題を解決していくためには薬学的な知識が不可欠であるため、持参薬の適切な管理に薬剤師が責任を持って取り組んでいかなければならない。現在、持参薬に伴うさらなる問題点を明らかにし、リスクを未然に回避するための検討を行っている。